TAKEMOTO

塗布型収縮低減剤

ヒビダンW

近年、コンクリート構造物の耐久性と信頼性を確保するため、乾燥収縮によるひび割れを抑制・制御する対策が求められています。

ヒビダン W は、硬化したモルタル・コンクリートの表面に塗布することでモルタル・コンクリートの乾燥収縮を低減することが可能な塗布型の収縮低減剤です。

特　長

- 脱型直後のモルタル・コンクリートの表面に塗布するだけで、特に初期の乾燥収縮を低減し、ひび割れ発生を抑制します。
- ヒビダン W を塗布するとモルタル・コンクリートの表面からの水分逸散を抑制するので、無塗布に比べて圧縮強度は同等もしくは若干増加します。
- 塗布直後はコンクリート表面が濡れ色を呈しますが、含浸後は何ら外観に影響を及ぼしません。
- モルタル・コンクリートの耐久性に悪影響を及ぼしません。

主成分・物性

主 成 分	外　観	密度 (g/cm^3, 20℃)
ポリエーテル誘導体	淡黄色液状	0.95 ～ 1.05

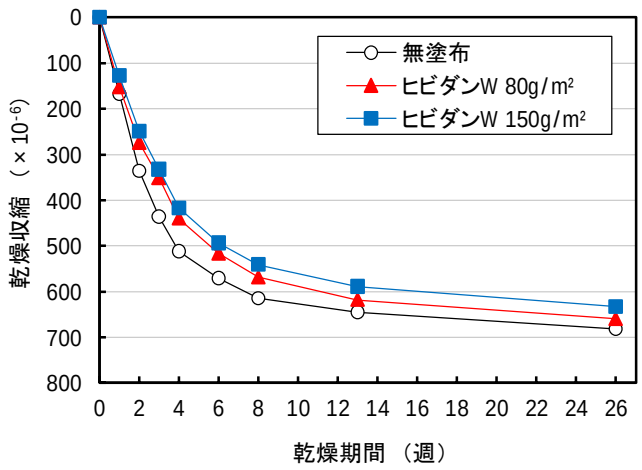
使用量・使用方法

- ヒビダン W の標準的な塗布量は 80～150g/m^2 程度です。脱型直後に刷毛、ローラー等を用いて均一に塗布してください。
- 脱型後に散水養生を行う場合は、養生終了後、モルタル・コンクリート表面の水気が無くなってから塗布してください。
- ヒビダン W を 1 回塗布し、含浸後に 2 回目の塗布を行うと乾燥収縮の低減にさらに効果的です。

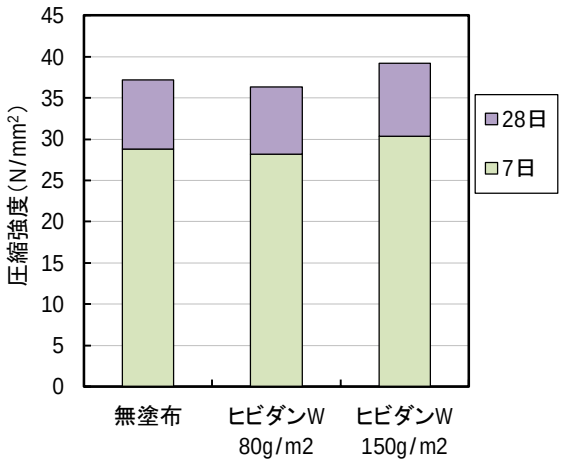
コンクリート試験結果(例)

<使用材料>
セメント：普通ポルトランドセメント(密度 3.16g/cm³)，細骨材：陸砂(密度 2.58g/cm³)，粗骨材：砕石 2005A(密度 2.68g/cm³)
混和剤：AE 減水剤（高機能タイプ）標準形，塗布型収縮低減剤ヒビダン W
<試験条件>
目標スランプ：18cm、目標空気量：4.5%、コンクリート温度：20℃
<ヒビダン W の塗布方法>
・圧縮強度試験用供試体は、脱型後、刷毛を使用して所定量を 3 面のそれぞれに塗布した。
・乾燥収縮用供試体は、脱型度に基長を測定し、その後刷毛を使用して所定量を 6 面それぞれに塗布した。
・いずれの供試体も、塗布後は温度 20℃、湿度 60%の室内で所定材齢まで養生した。
・ヒビダン W の塗布量は、80g/m²、150g/m² とし、比較のため無塗布も試験した。
<試験方法>
圧縮強度：JIS A 1108 に準拠、乾燥収縮：JIS A 1129 に準拠
<配合>

AE 減水剤 (C×%)	W/C (%)	s/a (%)	単位量(kg/m³)				スランプ (cm)	空気量 (%)
			水	セメント	細骨材	粗骨材		
1.0	50.0	46.2	175	350	797	965	18.5	4.6



乾燥収縮試験結果



圧縮強度試験結果

取扱い上の注意事項

- 本製品を標準的な塗布量の範囲外で使用する場合は、当社営業担当に別途ご相談ください。
- 取扱い時には、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、粘膜に触れたり、眼に入らないようにしてください。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをしてください。
- 目に入った場合は、清浄な水でよく眼を洗浄し、腫れ痛み等の異常が感じられる場合は、眼科医の手当てを受けてください。
- 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄し、無理に吐かせず、直ちに医療処理を受けるよう手配してください。
- 詳細な内容が必要な場合は、当社の安全データシート（SDS）をご覧ください。

荷姿

- 18kg缶

竹本油脂株式会社

本社・研究所　〒443-8611　愛知県蒲郡市港町 2-5　TEL.0533-68-2118　FAX.0533-68-1339
東京営業所　〒104-0032　東京都中央区八丁堀 3-20-5 S-GATE 八丁堀 3F　TEL.03-3553-6912　FAX.03-3553-6920
大阪営業所　〒541-0054　大阪府大阪市中央区南本町 4-5-20 住宅金融支援機構・矢野ビル 9F　TEL.06-6243-3306　FAX.06-6243-3347
九州営業所　〒812-0013　福岡県福岡市博多区博多駅東 2-8-10 東福第三ビル 2F　TEL.092-431-4355　FAX.092-473-8605

●このカタログに記載の商品はことわりなく仕様や取り扱いを変更する場合があります。
●ここに記載された事項は、弊社での標準的な試験に基づくデータであり、現場での多岐にわたる条件下での性能を保証するものではありません。

2025.09